今日、おおい町で、暮らしてみる

SEE SEA PARKを拠点とした疑似移住体験による継続的な交流と賑わい創出

～町の内と外に住む人たちの、つながりつづくまちづくり～



８班　追手門学院大学地域創造学部地域創造学科藤原ゼミ　フランスパン

チーム名 フランスパン

追手門学院大学　地域創造学部　地域創造学科　藤原ゼミ　2回生

福畑・高橋・田之畑・吉田・相良・森本・宮本・宮腰・安武





目次

01　現状

① おおい町の現状と地域資源

② フィールドワークから見えた課題

02　提案

① 提案の全体図

② 具体策

③ 再訪へのつなぎ

03　計画

① 実施方法と予算

② 期待される効果と検証方法

04　まとめ

おおい町の地域資源



自然・景観
美しい海と青空、SEE SEA PARK
などの新しいリゾート施設



文化・イベント
地域の一体感を生む伝統的な
「大火勢」



食・特産品
新鮮な海の幸やうまみが
溢れ出す農産物

豊かな自然・伝統文化・食を『観光する』だけでなく、
『暮らしとして体験する』機会をつくる

フィールドワークから分かった課題

01　交通手段の少なさと施設間の連携不足

車なしの移動が困難で、**施設単体での利用**に留まる

02　人口減少と地域活動の担い手不足

行政だけでは**住民交流の創出が難しく**、学生の企画力・実行力への期待が大きい

03　観光客の季節的な偏り

GW～**夏は家族連れで賑わう**が、**冬場は雪の影響などで閑散期**となるのが課題

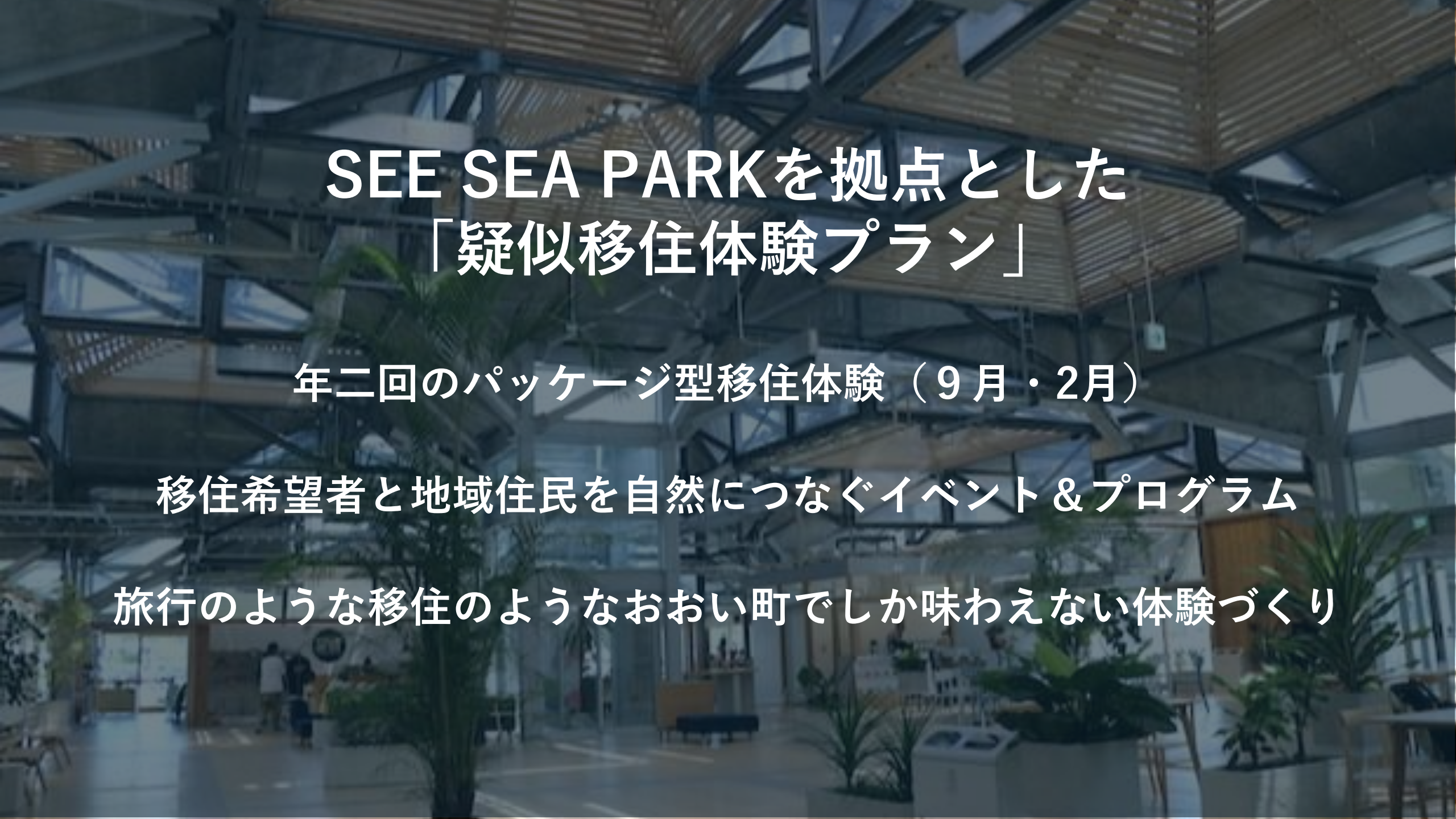
04　再訪者の少なさと継続的な関係づくり

おためし住宅利用（14組34名）やSNS発信などが**うまく移住・継続利用に繋がっていない**

05　地域の魅力を伝える情報発信と交流の不足

移住者向けの公式LINEなどの**認知が弱く**、地域住民との深い交流にまで至らない

一度の訪問を継続的な交流・再訪につなげる仕組みが必要である



SEE SEA PARKを拠点とした「疑似移住体験プラン」

年二回のパッケージ型移住体験（９月・2月）

移住希望者と地域住民を自然につなぐイベント＆プログラム

旅行のような移住のようなおおい町でしか味わえない体験づくり

提案①　移住体験プランの全体像

いきなり移住ではなく、ハードルの低い体験から満足度を高め、深い関係へつなげる

DAY1
地域を知る
まずは観光感覚で気軽に「町の雰囲気と魅力」を知る

DAY2
地域を体験
季節ならではの特別な体験で「おおい町のファン」になる

DAY 3
人とつながる
住民と交流することで「また来たい・関わりたい」と思わせる

【少人数（5組）での開催】

・大人数イベントにせず「深い交流」を生み出すことで、体験の満足度を最大化する

【開催時期の設定（SEE SEA PARKのオールシーズン賑わい創出）】

・9月【大火勢】：町の熱量を体感し、最も関心を高めやすい時期

・2月【最閑散期】：観光客が減る時期だからこそ、地元一体型の目的型イベントで賑わいを作る

参加者が増加すれば段階的に四季すべてに開催を検討

3つの目的

関心・認知拡大

おおい町に関心を持つ人を幅広く集める

町内外の住民や、おおい町に魅力を感じている人・移住を考えている人を集める

地域交流・魅力発信

イベントを通しておおい町を知ってもらう

地域の人との交流や体験を通して、おおい町の魅力や暮らしを知ってもらう

移住へのきっかけ

おおい町での暮らしを知り、移住につなげる

移住体験者との交流や移住体験を通して、おおい町での暮らしを具体的にイメージしてもらう

「知ることから将来的な移住へ」

９月の移住体験プラン

１日目	２日目	３日目
受付・町歩き	大火勢祭り	食事会・交流会

・SEE SEA PARKで受付
・「**おおい町めぐりくじ**」を引き１日の目標を決める
・自由行動で探索
・夜は宿泊
（宿泊援助金1万支給）

・**大火勢祭り**（例年9/5）に参加
・地元の人と交流し**地域の文化**を知る
・宿泊

・地元住民・移住者との食事会・暮らしの相談会を通じて、地域での**暮らしや移住**について話す
・SEE SEA PARKにて意見交換会

２月の移住体験プラン

（夏からの継続者の方には5000円の支援金）

１日目	２日目	３日目
受付・町歩き	ランタンフェス	食事会・交流会

・SEE SEA PARKで受付
・「おおい町めぐりくじ」を引き１日の目標を決める
・自由行動で探索
・夜は宿泊
（宿泊援助金１万円支給）

・ランタンづくり・地域交流イベントに参加
・ランタンに絵を描いたりアート作品を制作
・地域の人と交流

・地元住民・移住者との食事会・暮らしの相談会を通じてを通じて、地域での暮らしや移住について話す
・SEE SEA PARKにて意見交換会

参加者の予算案

2泊3日の費用負担　1人２万～３万（推定）

交通費：お試し滞在支援事業補助金で
5,000～10,000円程度を補助
宿泊費：1人あたり1万円を補助
宿泊先：おおい町内の宿泊施設を利用
体験費：予算から1人あたり3000円補助
食費　：参加者の自己負担

目標　：補助制度を活用し、参加者の負担を
抑えた疑似移住体験を実施する。

※実際の自己負担額は、宿泊施設・交通手段・食事内容などによって変動する。





疑似移住体験のPR画像案





スーパー大火勢について

開催場所　**うみんぴあ大飯**
開催時期　**9月開催予定**

おおい町の夏を代表するイベント
「スーパー大火勢」を体験

参加者へのねらい
地域のお祭りに参加し、**おおい町ならではの文化や雰囲気**を感じる。
・地域の人やほかの参加者と**交流し、町の人との繋がり**を作る。
・旅行者として訪れるだけでなく、**地域の一員**になったような体験をする。

目的：お祭りを通して地域の魅力を知り、**またおおい町を訪れたい**と思うきっかけに繋げる。

参加区分

無料、自由閲覧
松明を持たず歩くだけ
沿道から松明行列行列
を見学

有料、松明体験

実際に松明をもって行列に参加

確認済み事項

・**松明体験＆特設観覧席**をセット
・松明行列に参加することができ、特設席にて観覧可能
・実施可能性の事前相談・確認済み
・実際に実施することが決まれば、疑似移住体験プラン参加者用の特別枠も設けることも可能

ランタンイベント

開催場所　うみんぴあエリア
(see sea park)
開催時期　2月開催予定

イベント内容
・ランタン作成
参加者がランタンに絵やメッセージを描き、大きなランタンを作成
・地元の食を味わう
特産品を使った食べ物や地元のお店の料理（キッチンカーなど）を楽しむ
・魅力コーナー
地元の交流や特産品を使った体験を通して、おおい町の魅力を知らせる
・ランタン点灯
制作したランタンを会場に並べ、幻想的な景色を楽しむ



学生が企画し、地域住民・店舗の協力を得て実施する交流イベントを開催

提案②おおい町めぐりくじ

「おおい町めぐりくじを引いて歩きまわろう！」

Step１　SEE SEA PARKでくじを引く

Step２　カプセル内のミッションを確認

Step３　町を巡ってミッションに挑戦

Step４　発見した魅力や感想を記録

写真や感想をSEE SEA PARKの魅力図鑑に活用

町をめぐるきっかけづくりや魅力再発見へ









おおい町めぐりくじの目的

1. 人と出会う
地元の人におすすめの場所を聞く
（交流と発見）

2. 町を巡る
初めてのお店で地元の食を楽しむ
（未知体験）

3. 魅力を発見
一番お気に入りのおおい町の風景、食べ物、魅力を探す
（独自の視点）

当たりカプセル

通常のミッションに加え、当たりカプセルには特産品引き換えチケットや、ミッション達成時は道の駅のジェラート引き換え券などを配布予定

参加者の町内周遊を促し、地域店舗の利用や消費につなげる

SEE SEA PARKに設置できると確認済み

おおい町めぐりくじの例



気軽に参加



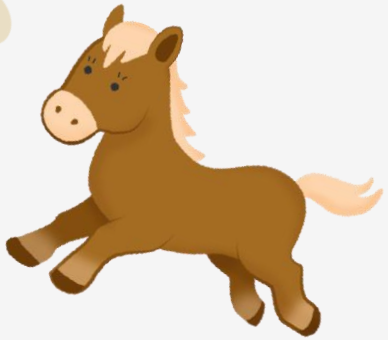
・おおい町の「おいしい」を探せ！（ご飯を食べてる写真を撮る）
・お土産を買って食べる（気になった商品を選びレビュー）
・おしゃれカフェでインスタグラマーになれ！
（cafe＆place aelu、Cafe Desert Roseでおすすめのメニューを食べる）

地域を知る

・おおい町の秘密を解き明かせ（エルガイアおおいで大飯発電所の役割を知る）
・これで君もキノコマスター（きのこものしり館に行く）



町を巡る



・おおい町の端っこに行ってみよう（赤磯岬鋸崎台場跡地）
・マイナスイオンを感じよう！（野鹿の滝を見に行く）
・ポニーと触れ合おう！（青戸ベルサイドヒルズに行く）

おおい町で暮らす魅力を感じる移動手段

【既存インフラの活用】 疑似移住体験の移動手段では、既存の電動アシスト自転車（レンタサイクル）や町内公共交通をフル活用し、コストを抑えた堅実な移動手段を確保。
【移動のエンタメ化による賑わい創出】 将来的には、観光協会や地元事業者との実証実験として、二次交通の導入を目指す。



【将来構想】
・トゥクトゥク　　観光の目玉になり、話題性になる。
・小型ＥＶカート　環境に優しく、子供連れや高齢者でも移動しやすい
・電気自転車　　観光スポットを自由に移動でき、比較的費用を抑えられる

移動の時間も、おおい町での暮らしを知るきっかけに

再訪へのつなぎ

1. おおい町の魅力図鑑

参加者の写真や感想をSee Sea Parkに展示。
次に訪れた人が町を巡るヒントにする。

See Sea Parkに訪れる誰でもおおい町めぐりくじに参加できる仕組みづくり。

2. 季節ごとの再訪案内

SNSやLINEで次のイベントや関連施設イベントを積極的に案内。夏に来た人に冬のランタンフェスの紹介、継続割引など、再訪のきっかけをつくる。

3. 継続的な交流

プラン内に交流会を設け、地域の人や移住者とのつながりをつくり、次の訪問や移住への関心につなげる。



疑似移住体験後も、
おおい町とのつながりを継続させる

50万円で実現するための計画案

予算案

■ **年間予算案（5組×年2回＝10組 20名分）**

・参加費補助（宿泊・体験・イベント）：36万円

- 宿泊補助：1万円×20名 ＝ 20万円
- 体験費補助：3,000円×20名 ＝ 6万円
- ランタンフェス等設営・材料費：10万円

・運営人件費・謝礼：8万円

- 学生交通費補助：5,000円×4名×2回 ＝ 4万円
- 地元講師・スタッフ謝礼：5,000円×8名 ＝ 4万円

・ツール・広報費：4万円

- 景品・カプセル手配：２万円
- マップ・図鑑印刷（500部）：1.5万円
- SNS広報費：5000円

・予備費・保険料：2万円

【合計】50万円（上限55万円を厳格遵守）

実施の考え方

1. ハードコストの徹底削減

既存施設や設備、イベントを活用し、費用を浮かせて「宿泊・体験補助」へ重点投資。

2. 一般来訪者からのマネタイズ

おおい町めぐりくじは移住体験参加者は無料。一般観光客は1回100円で常設設置。（想定売上：年10万円）。次回運用費・景品代へ還元し黒字化。

3. 小規模実証実験からの展開

初年度は10組限定で満足度を検証。
2年目以降は参加費一部負担＋ガチャ収益で 補助金に頼らない自走事業へ。

企画の成果をどう測るか？

期待される効果	効果の検証方法
See Sea Parkへの来訪促進	くじ参加者数
町内の回遊促進	ミッション達成数・参加店舗数
地域交流の促進	交流会参加者数・満足度
継続的な関係づくり	再訪希望率・実際の再訪者数

実施前に目標値を設定し、終了後にアンケートや参加記録で検証する。単に参加人数だけを見るのではなく、「町を巡ったか」「住民と交流できたか」「また来たいと思ったか」を確認する

周遊・消費・交流・再訪の4つの効果を検証する

まとめ

一度訪れる町から、何度も関わりたくなる町へ

ガチャで町を知る
疑似移住で暮らしを体験する
住民とつながる

再訪・関係人口・将来的な移住へ

「See Sea Parkを、町と人をつなぐ入口にする」

ご清聴ありがとうございました

8班　追手門学院大学地域創造学部地域創造学科　二回生
藤原ゼミ　フランスパン